

ニュータウン再生の旗、より高々と 「NPO法人高蔵寺どんぐりs」意欲も新たにスタート

「NPO法人高蔵寺ニュータウン再生市民会議」から「NPO法人高蔵寺どんぐりs」への名称変更（定款変更）に関する愛知県知事の認証決定通知（7月2日付）が、同11日に「あいちNPO交流プラザ」から届きました。名古屋法務局に変更の登記申請を行い、同28日に名称変更登記が完了しました。「高蔵寺ニュータウンを幾世代にも住み継がれる魅力ある街に再生したい」という発足当初の目標は堅持し、親しみやすい名で、幅広い人々に運動の輪を広げたいとの願いを込めた改名です。

「どんぐりs」の由来は高森山緑化作戦

監事 片山繁行

10数年前 高森台北部の工場誘致地区での

役員会から

新型コロナウイルス感染防止策として「どんぐりs」役員会も5月23日、はやりのズームによるテレビ会議を行った。パソコンに詳しいメンバーが設定し、決められた時間にパソコンを開いた。小分けした画面に見慣れた面々が映る。何か緊張する。議長の堀内理事長もどこかぎこちない。●淡々と議事が進む。チャチャも入らなければ横道にもそれない。途中で不慣れな参加者が余計な操作をして画面から外れるトラブル（実は私）があったが、いつもより早く終わった。「それではこれで」と閉会したがどうもスッキリこない。●無駄がなさすぎるのだ。余談、雑談、思い付きが議論を深める。議論が横道にそれ、思わぬアイデアが出ることもある。第一、味気なくて会議が面白くない。7月からは自粛の緩和もあって通常の役員会に戻った。（明賀 雄二）



高森山を整備する「つくる会」メンバー

地元住民会議の中で、曾田忠宏先生（初代理事長）から、「このままではニュータウンは、人口減が続き、田舎にあるコミュニティもなく、高齢者ばかりになり、街として衰退をして取返しが利かなくなる。今なら元気な人もいるので、再生のための活動ができる」という問題提起があった。その後、この問題に限り何人かに声をかけ、議論を進めた。ただ、再生というイメージが抽象的であったため、参加者の中で明確な統一的目标がないまま、とりあえず「住民団体」を作ってから具体的目標を固めようとの議論になり、またどうせなら「任意の住民団体」ではなく、「NPO法人」としたいという意思があり、NPOとして発足した。団体の名称については、あまり議論がなく、素直に、「高蔵寺ニュータウン再生市民会議」と決まった。ただ名前が難しい、長いという意見が出て、愛称として「高蔵寺どんぐりs」とすることが決まった。

「どんぐり」という名称は、NT開発当初にはげ山であった高森山に緑を増やし、育てようと高森台小学校を中心とした住民活動があり、その時の運動が、どんぐりの実を植えて、緑を増やそうとした「どんぐり作戦」に由来するものであった。ここに、「達」という意味の「s」をつけ、「どんぐりs」とした。

2020年各部会活動報告

◆魅力ある高森山公園をつくる会

毎月、原則第2土曜日15時から2時間程、高森山の登山道や林の中の下草刈り、伐採等の整備を行なっています。つくる会は誰もが利用しやすい魅力的な公園にするため、2017年11月に立ち上げました。行政と連携しながら雑木林の里山に変えていきます。登山道周辺は歩きやすくなり、少しずつですが、すっきりしつつあります。ここには、里山を好むニホンリス、希少なギフチョウや食草のスズカカンアオイ、ササユリ等、数多くの動植物が生息しています。公園の未来プランは、高蔵寺まちづくり株式会

私の朝・昼・晩

カシスは歩いたのか？

7年ほど前にカシス（クロスグリ）の苗を庭に植えた。日当たりの良い場所を選んで植え付け、はじめは順調に成長した。しかし、3年目に葉も枝も枯れてしまった。ところが、そこから40センチほど垣根寄りの日陰のところに新しい芽を出した。カシスは今もそこに定着している。「カシスは歩いたのか？」、植物は受動的なものという概念が揺らいだ。

2年前に楽農会に入り、畑での野菜作りを始めた。園芸書に加えて、図書館で「植物はそこまで知っている～感覚に満ちた世界に生きる植物たち～」(D. Chamovitz著、矢野真千子訳)を読んだ。本書は、植物と動物の遺伝子の類似性を紹介している。ヒトと植物が同じ遺伝子群を持っているということだ。生物進化を考えれば当然のことかもしれないが、現在も隣り合わせで生きていることに改めて驚かされた。だから、カシスが歩いて不思議ではないかもしれない。

最近、高森山の整備活動に加わった。様々な動植物が棲息生育していることを知るのが面白い。高森山公園にはグラウンドやテニスコートもあり、市民に利用されている。高森山は高蔵寺ニュータウンにシンボリックに残された標高200mほどの里山だ。手入れがされてこなかったため常緑樹が密生した暗い森になってしまった。活動は、山に手を入れ、ここを憩いの場に戻すため。進化と多様化が織りなすニュータウンの新しい“まちの里山”プロジェクトを始めよう。(稲熊 裕)

社と協力しあい、実現に向けて進行中です。秋には同社主催の里山づくりのワークショップや実技体験が予定されており、積極的に協力していく予定です。本会としても今春、「つつじを見よう会」を実施し、秋には「紅葉を楽しむ会」等を催す予定です。(采女 秀世)

◆生き生き楽農会

コロナウイルス禍による自粛で旅行等に行けませんが、楽農会員はいつでも通える畑があり本当にありがたい。夏野菜は長雨にたたられましたが、キュウリ、ナス、ピーマン等出来栄はよく、野菜が高騰している折、大いに助かっています。2010年4月発足し、生き甲斐を求め、安心安全な有機野菜や果樹づくりを楽しみながら、玉野地域の方々と連携したまちづくり、自然環境や農業のあり方に取り組んでいます。まちづくりイベントの産直に出品したり、環境保全活動に参加しています。(堀内 泰)

◆ハート・ほっと・ルーム

昨年の6月から「ハート・ほっと・ルーム」を開設いたしました。グループカウンセリング方式で、安全で安心出来る雰囲気の中で、お互いの信頼関係の下に、ご自分の悩みや困りごとを言葉に出して話すことから始まります。話すことで、ご自分の想いや考えがより明確に整理され、また他者の考え方等を参考に自分の中に、より良い方向での気付きが生まれます。元気を貰ったり、与えたりできる癒しの空間を目指しています。そして、この「ハート・ほっと・ルーム」には、次ぎの2つの約束があります。

- ①人の話を評価したり、批判したりしない。
- ②ここでの話は、他では話さない(守秘義務)

(浪川 昇三)

◆すまい困り事相談

改修やすまいに関する困りごとは、多くの人にとって関心が高い事柄ですが、最近では、高齢化などにより問題解決へのあきらめが生じているのか、相談者が少なくなっていることが危惧されます。一方先日も、事情があって住まいが見つけれずに困っているという相談があり、すまいの相談にはいろいろな内容・種類があるのが分かります。とりあえずは、どんなことでもまずは相談してもらえると何かいい方法が見つかるのではと考えています。(長谷川 光男)